

令和3年度 都城市立山之口小学校 学校評価報告書

評価 4：十分に達成 3：おおむね達成 2：努力を要する 1：取組の内容の修正・変更を要する

項目	重点指導項目	方策・手立て	成果・課題及び改善策	自己評価	学校運営協議会委員の意見	委員の評価
豊かな心の育成	基本的な生活習慣定着・規範意識の醸成	あいさつや言葉遣い、廊下歩行など基本的な生活習慣の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「挨拶」の肯定的回答は、児童 78.5%、保護者 81.1%、職員 76.9%、学校では全校集会や各学級で機会あるごとに自分から先に挨拶をすることの大切さを指導してきた。さらに、登校時の正門下での立番指導、児童玄関でのあいさつ指導、山之口地区のあいさつ運動、地域の見守り隊の皆様の声かけ等を通して指導を行ってきた。挨拶に関しては、地域の方からもよくできるようになったと称賛の言葉もいただいているが、自分から先に挨拶をすることに課題がある。「先に届く挨拶」を目標に掲げ、継続して指導を行っていく。 ○ 「廊下歩行」の肯定的回答は、児童 69.4%、職員 53.8% 指導の手を緩めると元に戻ってしまうので継続して徹底的に指導していきたい。「だれでも、いつでも、どこでも、その場で指導」をモットーに、廊下歩行のやり直しや声かけを行い全職員で指導している。 ○ 「学校等のきまりを守って生活」の肯定的回答は、児童 91.5%、職員 84.6%、保護者 96.1% 「山小っ子の一日」を各学級で読み合わせしたり、保護者に配付したりして、交通事故やけがの防止、規範意識を育てるために指導の徹底を図っている。 	3	<p>【肯定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶や思いやり、いじめ対策など、日常の取組やその成果もすばらしいと思います。また、今、できていても、児童は常に変わり、心情、対人関係も変化していきます。同じ指導をくり返すのは大変だと思いますが、子供の将来のためにがんばってください。 ・ 見守り活動を行う中で、「こんにちは」「気を付けて帰りなさい。」と一人一人の子どもたちに「しつけ」と思い声かけをするようにしている。自分たちから挨拶をする子どもたちも増えてきた。 ・ 運営協議会時には、大きな声で挨拶をしてくれる児童が多くすばらしい。 ・ 2学期に入り、自分から元氣よく挨拶する児童が増えてきており、1・2年生も上級生を見習い元氣に挨拶ができています。 ・ 挨拶を通して、児童と住民との距離が近付くように互いに「先に届く挨拶」を実践できていると思う。 ・ 先生方の視点が単に福祉の模擬体験ではなく、当事者との交流の中で児童に気付きを求めていかれているのをお聞きし心強く感じた。今後も、社会福祉協議会（ボランティアセンター）等の機関との積極的な連携のもと、児童の発達段階に応じた考察の場の創造を期待しています。 ・ 3年生の外部講師を招いての福祉教育は実践的で効果があると思う。 ・ 3年生の福祉の学習の中で、視聴覚障がいの方との交流を通して児童の心に響くものがたくさんあったことと思います。学校のいろいろな取組が児童の豊かな心を培っていることに感謝したい。 ・ 福祉教育や体験教育については、今後も継続した取組を期待します。特に朝のボランティアは、大人から認められていると子供は感じて、プラスの効果が出ていると思います。 ・ 豊かな心の育成は、自分の周りの環境に大きな影響を受けます。特に長い時間を接する先生方の影響は大きいです。山小の先生方は一人一人の個性を大事に育ててくれます。とても嬉しく感じています。 ・ 相手を思いやる心の評価については、学校の日頃の取組の成果です素晴らしいです。 ・ いじめに関しての毎月アンケートはありがたいです。その成果が保護者、児童の評価であると思います。 ・ 登校時の見守りの中で、靴紐のほどけた友達を結び直すまでみんな待っているという様子を見て、「相手を思いやる心」はしっかり育てられていると感じた。 <p>【課題や今後の要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶は家庭から、また、家庭の「しつけ」からであると思います。学校からの努力だけでなくPTAの力も借り子どもたちは育てた方がよいと考えます。 ・ 挨拶のできる社会人、相手を思いやる行動等、それらは子供の時に醸成されると思っています。常に「新しく出会った子供」の意識で、これまでと同様にがんばっていただきたいと思っています。 ・ 児童の挨拶は素晴らしいと思うが、2割程度は否定的であることが意外であった。「自分から挨拶をする」姿が、児童の手本となれるよう、大人である私共保護者及び先生方共に根気強く取り組む必要があると思います。 ・ いじめ問題は外部から見えにくく、気付にくいので、些細なことでも地域の中で気付いたことがあれば学校に報告するなど連携をとっていきたい。 ・ 説明にもあったように、児童、保護者共に9割5分以上が「学校は楽しい」と感じているが、残り5分の児童の思いがどこにあるのか気懸りです。しかしながら、先生方の姿勢や児童の様子を見るに10割達成も大いに期待できると感じています。 ・ 縦割り班による清掃活動はリーダーシップや協調性の醸成に役立つ取組である。多様な場面で「縦割り班」活動が拡大するとよいと考えます。 	3.3
	相手を思いやる心の育成	相手の立場に立つ指導の強化と様々な交流の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「思いやりの心」についての肯定的回答 児童 96.7%、保護者 99.2%、職員 100% 学校では、道徳科や学級活動を中心に、具体的な指導を行ってきた。また、すべての教育活動で、相手の立場に立ち、「自分が人からしてほしいことは、人にもしない。」ことの指導を4月から繰り返し全校集会や各学級で行ってきた。しかしながら、自分がしてほしいと思うことであっても他の人に対して行うことで、嫌な思いをさせていることは本校でも起こっている。特別活動や学級経営において、望ましい人間関係の醸成のための工夫・改善を図っていく必要があり、日常の取組が大切になる。 	3		
	福祉教育や体験活動による心の教育推進	JRC 活動や福祉教育、体験活動を充実させ、児童の心を耕す。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎朝のボランティア活動、募金活動、一人一鉢活動等を行うことで人を思いやる意識を高め、実践力が身に付くよう指導を行ってきた。山之口小伝統の「朝のボランティア活動」では、1年生から6年生まで、自主的に運動場に出て、草抜きや落ち葉拾いを行うことができた。 ○ 青少年赤十字（JRC）活動の実践目標である健康・安全（いのちと健康を大切に）、奉仕（人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する）、国際理解・親善（広く世界の青少年を知り、なかよくたすけあう精神を養う）と実践している活動を結びつけて児童の意識を高める必要がある。 ○ 福祉体験学習では、第3学年の総合的な学習の時間において、都城ボランティアセンターに依頼し、外部講師を招聘し、視覚障がい者の方の講話、「ひばり苑訪問」（本年度はビデオメッセージ等に代える）を実施し、福祉教育の充実を図る計画である。 	3		
	いじめ等の未然防止と初動による適切な対応	いじめ等の未然防止の取組を充実させるとともに事案発生時の報告・連絡・相談体制の整備と確実丁寧な初動対応を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学校では楽しく過ごせている」の肯定的回答は、児童 95.3%、保護者 95.3%、「学校の児童の悩みの相談対応やいじめ等の防止」は、保護者 88.2% 全校集会や学級での道徳科や学級活動を中心として、学級経営において望ましい人間関係の醸成のための工夫・改善を図っていじめ等の未然防止に努めている。 ○ 毎月アンケートを実施し、6・11・2月については保護者と一緒に児童が回答する方法で行っている。また、月に2回、業前に教育相談を実施し、友達関係等の悩みや不安を担任が把握するようにしている。さらに、保護者からの情報も得ながら、いじめの早期発見と初動の適切な対応を行っている。いじめの認知については、積極的に行い、事案解消に向けて確実丁寧な対応を行っている。 	3		

確かな学力の定着	諸調査の経年変化の分析と活用	CRT検査の経年変化から見た各学年の指導上の課題の抽出と重点的な指導を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学習の理解・定着」の肯定的回答は、児童 90.2%、保護者 82.6%、職員 46.2%、「家庭学習の習慣化」は、児童 93.9%、保護者 73.3%、職員 92.3%、「家庭での読書の習慣化」は、児童 57.3%、保護者 40.9% ○ 本年度の1月に実施したCRT検査（国語科・算数科）の正答率は、全国平均と比較し、1年生から6年生までの国語科と算数科の12区分中、8区分において全国平均を下回る結果であった。また、5月に実施した全国学力調査の結果、本校の6年生は全国・県の平均を下回る結果となったが、5年生で実施したみやざき学習状況調査に比較し、国や県との差は縮まってきている。研修において、実際に問題を解くなど結果分析を行い、落ち込んでいる内容を把握し、重点的に指導できるよう教科書等に付箋を貼って意識して指導できるようにした。また、学びの時間や業前の学力アップタイムの時間に補充・関連指導を行った。 	3	<p>【肯定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先生方の授業風景を見させていただき限り、良い評価結果だと推察します。 ・ 進学した際の、中学校からのオーダーを事前確認し学習や指導に落とし込みを行い指導に生かしていただき大変保護者としてもありがたいです。今後も継続した取組を期待します。 ・ 山之口地区3小学校をオンライン授業でつなげ、多様な考えに触れる機会があり、とても素晴らしいことです。他校の児童と対話し、お互いの考えを伝え理解することは、大変重要であると思います。 <p>【課題や今後の要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちや自分の子どもの世代は、宿題の他にも自分たちで学習、復習をしていたが、最近の子どもたちは、宿題以外に自分から学習することが少ないのではないかと。 ・ 学習の理解が課題であることが、先生方の厳しい評価から伺えます。ただし、家庭学習があつての習熟だと思えます。家庭環境が様々であり困難ではありますが、先生方の正答率の悪い箇所の内容分析に基づいた重点的な指導を、今後も継続頂けることで、理解度が上昇に転じることを期待します。 ・ 家庭においてはテレビやパソコン（インターネット）、各種のゲームがおもしろく、興味があるため、読書への意欲や興味がわかないのではないかと。 	
	ICTを活用した授業力向上	教科等の指導にICTを活用し、より効果的な活用方法について研究を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4月に1人1台の端末（パソコン）が整備され、ICTを活用した授業に取り組んでいる。現在は、パソコンの基本的な機能を活用した授業が中心となっており、学年が上がるごとに活用され、児童のスキルも向上してきている。また、ICTの活用については、使用する際のルールの指導も併せて行っている。児童の操作技能については、山之口ブロック（山之口中、山之口小、富吉小、麓小）で発達の段階に応じた到達目標を作成し、小中一貫して取り組んでいる。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明のとおりであると思います。分かったつもりになっているが、理解の定着に至っていないと思われるので、3学期以降の先生方のアプローチに期待します。ただ、児童が理解できていると回答している背景は、授業が楽しいということを物語っているのではないかと思うので、そこは評価したいと思います。 ・ ICTの活用は年々充実してきていると思います。技術に振り回されるのではなく、使いこなしていくことが求められますのでよろしくおねがいします。 ・ 授業参観時、4年生のパソコン授業の中で新聞づくりを参観した。現代っ子らしく生き生きと操作しており感心させられた。ただ、家庭によってはパソコン所有の有無や、保護者の児童への対応の差などはないか気になるところでもある。 ・ ICT活用は今後のこれからの社会の中で重要なスキルとなるので、児童の関心の高いこの時期に最大限の教育をお願いしたい。 ・ ICTを活用した教育に関しては、先生方は大変ご苦労ご心配をされているかと存じます。今後もGIGAスクール構想があり、より複雑になりそうですがよろしく願いました。 ・ 小中一貫教育のさらなる推進を期待したい。 ・ 私の知っている子どもの中に、いつも机に向かって子どもがいます。なぜ、そんなに勉強するの？と聞いたら、「覚えるのがとても嬉しい」との答えでした。勉強するのが好きになる子どもたちを育ててほしいです。 ・ 全ての教科において、読解力は重要な基礎となるものである。全体的に読書習慣の評価が低いということは気になります。読解力は、思いやり(他人の心を推察する)の心の醸成にも大事だと思いますので、がんばって向上させてほしいと思います。田舎の子供の方が、力が付きにくい教科が国語だろうと思いますのでその意味でも。 ・ 小学校から始まっている英語教育の在り方も不安を抱えています。英語幼稚園や塾など学習前の差、環境の違いなど、置き去りにされていく児童が出やすいのではないかなど心配しています。 ・ コロナの影響の中、オンラインによる情報の伝達や交流が進んだことは良かったと思います。今まで一堂に会することが前提であったものが、その手段によらない道が開けたのですから。更なる深化を期待しています。 	3.1
	小中一貫教育の推進	中学校から見た小学校で定着の必要な内容を意識した指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度に整理した「中学校の各教科からみて小学校時に定着してほしい内容」を本年度4月に確認し、学年毎に関係する内容を意識して指導している。また、中学校から出された学習態度（発表の仕方、話の聞き方、ノートの取り方、返事、学習準備等）については、全学年に共通するものであり、継続して指導を行っている。 	3		
	ねらいに応じた合同学習の推進	対話的で深い学びにつながる合同学習の計画と実施を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ オンラインによる3校（山之口小、麓小、富吉小）合同学習を11月30日に実施した。算数科の授業で、多様な考え方に触れることができた。 	3		

たくましい体づくり	<p>新型コロナウイルス感染症対策の確実な計画と実施</p>	<p>学校での行事・取組・生活において感染防止対策の観点から見直しを図る。</p>	<p>○ 「手洗い、うがい、マスク着用等の習慣化」の肯定的回答は、児童 92.0%、保護者 81.1%、職員 100%</p> <p>日頃の教育活動から行事まで、衛生管理マニュアルを基にしっかりとした感染防止対策をしながら教育活動を実施している。日常の指導や行事等の対策等の一つ一つに丁寧に対応し、全職員で共通理解を図り、共通実践ができた。また、保護者に対しても説明をしっかりと行い、理解と協力を得ることができた。</p>	3	<p>【肯定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ対策の徹底や工夫した避難訓練、弁当の日など先生方の努力に敬意を表します。なかなか、なくなりそうでなくならないコロナ、考えられない事故や事件、本当に子供たちの回りは危険だらけで、気の許せない日々が続くと思いますが、健康に留意されて、これからも頑張ってください。 先生方の日ごろのご指導や、保護者等のご理解により児童の衛生や健康に関する意識も高まっていると思います。 食育に関しては、「子どもが作る弁当の日」等の取組みを推進されており評価できます。 弁当の日は、子供は楽しみにしており、メニューを考え、買い物と一緒にいき、料理と一緒に作る親子で体験できるよい取組です。 「弁当の日」を夏季休業中に計画されたことは、保護者、子どもにとってゆとりがあり、楽しく作れた様子がうかがえる。弁当作りから食材の工夫や栄養面、金銭面など親子の対話の時間にもなり「弁当の日」の充実を一層期待したい。 4年生の3校合同遠足は基礎体力、持久力、忍耐力が必要な行事で山登りの場面では助け合いの心も醸成される取組と考えます。 新型コロナウイルス対策については、考えられる対策を学校は講じており完璧な対応でした。今後の感染状況が不透明ですが、これまでの対策の継続で問題ないと思います。 感染防止対策については学校側の説明や学校参観を通して、先生方が徹底した対策を取られていることを実感し頭が下がる思いです。児童もマスク着用、手洗い消毒、換気などを積極的に取り組んでいるのがうかがえました。 命を大切に取る取組は、通常の学習以上に重要かと思えます。保護者への引渡訓練や児童の避難訓練等、有事を想定した訓練の取組は、非常に重要で効果的です。今後も同様の取組を期待します。 予告無しの訓練は緊張感もあり児童の動きも見てとれて効果的だと思えます。保護者協力や近くの方々の住民の方々にも有事の時に協力をもらえるような関係性も大切かと思えます。 	
	<p>命を大切に取る取組の充実</p>	<p>予告なしの避難訓練と有事に備えた引き渡し訓練を計画・実施する。</p>	<p>○ 「学校の安全指導・危機管理対応」の肯定的回答は、保護者 98.4%</p> <p>6月には有事に備えての引き渡し訓練を実施した。保護者の協力も得ることができ、新型コロナウイルス感染症対策も講じながら実施することができた。同じく6月には、児童に対して予告なしの不審者対応避難訓練を実施した。児童も職員も緊張感をもって取り組むことができた。9月には、児童及び職員に対して予告なしの地震の避難訓練を行った。11月には、児童に対して予告なしの火災の避難訓練を実施した。都城北消防署の協力を得て、消防車の出動に始まり、火災避難の仕方、消火器の使用方法について指導していただいた。</p> <p>予告なしの避難訓練を行うことによって、有事の際にどのような行動をすべきかについて、緊張感をもって訓練を行うことができ、課題も明らかになり対応策を講じることができた。次年度も予告なしでの避難訓練を継続して実施していく。</p>	3		
	<p>健診結果を活用した健康な体づくり</p>	<p>自分の健康に対する関心を高めるために、健康診断後の治療率の向上に努める。</p>	<p>○ 2月25日現在全校児童216名中、むし歯のあった児童が39名、そのうち治療の終わった児童が27名で、治療率は69%名の状況である。これまでに保健便りや対象家庭に手紙を出すなど機会あるごとに啓発を続けてきた。また、冬季休業前には、個別に健康指導を行い、児童の健康意識を高める取組を実施した。今後も治療が進まない家庭については個別に根気強く働きかけをしていく。</p>	3	<p>【課題や今後の要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己でスイミングスクールやバレーボール、野球等のスポーツクラブに入って体づくりをしている子どもたちがいる一方で、帰宅後、何もしていない子どもたちもいると聞く。遊びもゲームが中心であるうし、運動する場がなく、どうしても体力が劣ってしまうのではないかと。 予告なしの訓練は大事だと思います。その上で、先生方にも周知しない形で実施出来たら（第三者＝消火器等の設置業者に依頼し、校長、教頭のみが承知して実施）なお効果が上がると思います。現実的には難しいでしょうが。 治療率の向上については積年の課題であると認識しています。しかし、積極的な受診は基本的に保護者の責務であり、学校側の働きかけは現状で精一杯の気がします。 たくましい体づくりは、食事と運動なのは分かっていると思いますが、給食だけでなく食事に対する理解を高めるためにもPTAの協力が必要だと思います。ぜひ、家庭の力を借りて子どもたちの体づくりを生かしてほしいです。 健康な体作りは、家庭の指導あって成立すると思いますが、むし歯の治療率の悪さは、家庭環境なので仕方ない部分もありますが、保護者に子供のことをもう少ししっかり見てほしいものです。 むし歯はすべての健康に影響があるといえます。保護者も将来の我が子のことを考えて、むし歯に関心をもってもらえるように根気強く働きかけてもらいたい。 	
	<p>弁当の日等を利用した食育の推進</p>	<p>食に対する望ましい理解を深めるために「子どもが作る弁当の日」の実践の充実を努める。</p>	<p>○ 「好き嫌いなく食べる」の肯定的回答は、児童 80.8%、「食事のマナーや望ましい食習慣」は、職員 64.0%</p> <p>「子どもが作る弁当の日」は夏季休業期間中に実施した。児童の実践報告からは、楽しみながら実践している児童がほとんどであった。児童、保護者とも時間的な余裕があり、児童が関わる割合が増えてきた。弁当の日の取組についてはコースの内容も含めて改善していきたい。小中一貫の取組にもなっているので、他校の実践も参考にしながら検討する。</p>	3		

開かれた学校づくり	コミュニティ・スクールの更なる充実	コミュニティ・スクール体制を活用し、熟議を通して学校教育の質的向上を図る。	○ 本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあったが、当初の計画通りの実施ができた。短時間ではあったが、学校の教育活動や新型コロナウイルス感染症への対策等については説明することができた。また、児童の様子も学校運営協議会の際に、見ていただくことができた。	3	<p>【肯定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページがほぼ毎日更新され、コロナのため学校運営協議会委員も運動会等の行事に参加できない中、日常の様子もよく分り、保護者にも伝わりやすいスタイルで、続けてほしい取組である。 学校ホームページは児童の様子や学校行事、先生方の教育方針や理念が詳細に掲載され、保護者や関係者に限らず、一般の人たちにも学校への理解が深まるものと思います。 稲作りや芋作りなど地域ボランティアと連携した取組は長年に渡って継続しており、また、挨拶運動、登下校の見守りなど、地域と学校が丸となっているものと評価します。 学校運営協議会に初めて参加させていただきましたが、学校が外部の地域の方々の意見を取り込みながら、指導等に生かすよう取り組まれており、驚きました。このコロナ禍の中で、できることを着実に進めて頂いており素晴らしいと思います。 ホームページは、ほぼ更新されており、子供と閲覧を楽しみにしています。まめに更新され、かなりの労力かと思いますが、素晴らしいです。先生方の努力が、閲覧数の大幅アップに繋がっていると嬉しいです。 特別支援学級の対応も、保護者のオーダーに応えながら、様々な機関と連携し取り組まれていることに敬意を表します。一人ひとり対応が異なるため、先生方も大変かと存じますが、今後とも継続した取組を期待します。 当初、校長先生からコミュニティ・スクール等について画像を使って説明して頂いたことで学校運営協議会の在り方や学校の活動の様子がよく分かった。学校と地域で連携を取りながら何をすべきかをしっかり考えていきたい。 時々ホームページを覗くことで学校の様子が手に取るように分かるので楽しみに閲覧する人も多いのだろう。特に3年生の福祉の学習は目にとまった。 <p>【課題や今後の要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校と地域の連携、地域が学校に、学校が地域に出て行く取組を少子化が進み中続けていけたらと考えます。 登校班の見守りの中で、時々登校班と別に1人で登校する児童に声かけしながら見守りにしている。声かけは児童の負担にならないように留めている。 先生方の健康こそが子どもたちの健康と学校の活力源なので、心も身体もリフレッシュできる時間を有効に活用してください。 コミュニティ・スクールの充実については学校運営委員として、もっと積極的な関わりをもつべきと考えているが、コロナ禍で外部から学校を訪問することが制限される中、先生方も難しい学校運営を強いられているのではないかと考えている。 学校における働き方改革については、児童に対して愛情をもって真摯に向き合い、児童の心身の変化に気付ける職員であるためには、先生方に精神的、身体的余裕がなければならない。そのためには、多方面にわたる改革をお願いします。 12月8日の学校運営委員会での授業参観の様子も早速アップされていました。今後も迅速かつ子どもたちの様子がわかるHPに期待します。 これからも現在の取組みの維持・向上を図っていただきたい。 学校は私たちの年代では敷居が高いと思っている人が多いと考えます。積極的な学校便りやホームページの活用などで、学校やクラスの出来事を発信する事が開かれた学校づくりになると思います。 働き方改革と呼ばれますが、指導内容や想像できない分野の指導が追加される等、先生方は疲弊されているのではないかと大変心配しております。また、学校のみならず、許容できない社会になりつつあり、働き方もより難しいフェーズに入っていくものと危惧しています。学校での工夫等による時間の創出も大事ですが、適度な休暇処理もまた大事かと思えます。
	働き方改革の推進	学校における働き方改革を具体的に推進する。	○ 学校の工夫による働き方改革への取組では、①「長期休業中の会議及び研修の効率化と削減」、②「毎週金曜日のリフレッシュデイ（定時退庁）の設定」、③「毎週水曜日のみ児童の昼休み時間をカットし、放課後の時間を確保することで、会議の集約と学級事務の時間の確保を図る。」の3点を中心に推進している。また、教職員一人一人の取組として、資料や学習プリントの共有化、学年や校務部データの整理、ICTの活用、業務の優先順位を付ける等の取組も見られた。今後、さらに、業務内容の見直しを図りながら推進していく必要がある。	2	
	積極的な学校情報の発信	学校の方針や取組を広く広報するために学校便りの発行とホームページの活用を推進する。	○ 「学校情報の発信」の肯定的回答は、保護者 97.6% 学校の方針や取組を広報するために、定期的（毎月1回）に学校便りを発行した。また、ホームページを活用し情報発信を行った。新年度がスタートした時の山之口小学校のホームページのアクセス数が93、914人で、2月25日現在、訪問者カウンタを見ると、191,545人となっている。本年度になって延べ97,631人の方に本校のホームページを閲覧していただいたことになる。今後も積極的に発信していく。	3	
	特別支援教育体制の充実	適時、適切な校内就学指導を実施するとともに、様々な関係機関との連携を推進する。	○ 特別支援教育推進委員会及び校内教育支援委員会については、定期的な会と臨時的な会を実施した。児童のアセスメント、保護者の意向も踏まえながら、専門機関とも連携し、児童やその保護者にとって望ましい方向性が出せるよう、本校の特別支援教育コーディネーターを中心に丁寧さとスピード感をもって取り組むことができた。	3	